

協議会ニュース

62号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 1997. 5



シデゴブシの色いろ...



あ

色も様ざま 花弁も変化に富んでいる。
いわゆる四半形よりもゴブシ形が多いので驚いた。〈'97-3 観察ノートから〉

相生山緑地オアシスの森

榊原 靖 (知多支部)

はじめに

名古屋市天白区南西部に相生山緑地がある。名古屋支部の近藤記巳子さんが自然観察会を催してみえるのでご存知の方も多と思う。広さ



N ← S

写真1 相生山緑地の航空写真

(名古屋市農政緑地局 小池敦夫さんの御厚意による)

123ha、周りを市街地に囲まれて、上空から見ると海にぽっかりと浮かんだ島のような緑地である(写真1)。

この相生山緑地の北東側の一部(約20ha)を「オアシスの森」にしようという事業が名古屋市によって進められている。たまたま縁あって、その生い立ちに立ち会う機会に恵まれたので、協議会知多支部という立場を離れて、あらましを紹介したいと思う。

「オアシスの森づくり」

資料1に、名古屋市農政緑地局の小池さんが作られた紹介文からの抜粋を示した。ここに書かれているように「オアシスの森」というのは公園整備事業に着手するまでの間、民有樹林地を借地して、できるだけ現状の植生や景観を損なわないように、最小限の整備をして、市民の利用に供そうというものである。さらに維持管

資料1

『オアシスの森づくり』事業について(抜粋)

名古屋市農政緑地局管理部公園事業推進室
小池敦夫

(1) オアシスの森づくりについて

～使用貸借による樹林地等の保全と活用を目指して～

名古屋市の東部丘陵に残っている樹林地などの緑は、市街化が進展していくなかで、“身近な緑”として、今やとても貴重な存在となっています。なかでも、都市計画公園・緑地として計画決定されただけの民有樹林地などの緑の占める割合は大きく、名古屋の緑の保全、活用のためにはできるだけ早く買収するように努めたいと思います。(中略)

従来の用地買収のみで対応するという考えから発送を転換して、公園整備事業に着手するまでの間、民有樹林地を借地し、樹林地等の保全と活用を目指す『オアシスの森づくり』事業を行うことになりました。

具体的には、無償で使用貸借した土地と市有地等を含めた一定の区域を「オアシスの森」として指定し、そこを市民が利用できるように整備を行います。樹木等の植生や景観を損なわないよう既存の踏み分け道を活用し、散策路、ベンチ、道標などの必要最小限の施設を整備します。

そして、市民の利用に必要な施設等の維持管理を行うとともに、下草刈りなどの林床管理を行い、良好な樹林地の育成に努め、市民の憩いの場を借地によって早期に提供しようとするものです。さらには、上記の維持管理や林床管理において、市民の主体的な参加協力を得てオアシスの森づくりを行うことを最終的な目標としています。

(以降略)

理を市民の参加・協力によって行っていくことまで構想している。こうした樹林地は、市街化が進んだ中で、都市に残った貴重な緑の空間になっている。古くは薪炭林などとして生活資源の供給地だったが、需要がなくなるとともに手入れがされなくなり、荒れ放題になっているケースが多い。また、往々にして粗大ゴミの投棄場所にもなっている。このような場所を早期に市民の憩いの場として開放する、しかも施設の維持管理や林床管理に市民が主体的にかかわりながら利用を進めていくというこの事業は、大いに意義深いと思う。

この「オアシスの森づくり」の第一号として相生山緑地の一部が選ばれ、これから紹介するような様々な活動が行われている。活動の殆どは、雑木林研究会（会長；岐阜大学農学部 林進教授）の指導・協力のもとに行われている。

柴刈り大会

柴刈り大会と銘打って林の手入れを行った。記憶によれば初めの頃は「大会」などとは称していなかったように思う。確か、最初はどんな具合になるか検討がつかなかったし、いくら雑木林研究会の指南があるといっても不安だったから、あまり目立たぬようにやりましょう、ということだったように記憶している。ところがフタを開けてみると、多少の呼びかけはしてあったものの予想を上回る多人数が集まったのイベントになった。一回目が1996年3月16日。以降5月18日、6月29日、11月30日、今年（1997年）に入って3月29日とこれまでに5回行ってきた。

初回、林先生から手入れの方針について説明があった。要点は、

○種類数だけでなく個体数も考えに入れた多様性を保つようにすること（そうすることにより光条件の多様度が高まる。また、種によって根の深さが異なるので土留めの機能にすぐれる。）

○樹形を大切にすること（一本立ちもあれば株立ちもある。種によって樹形が異なる。）

○稚樹は残すこと

などであった。

毎回何らかの目標を設定して作業を行った。ある時は、ヒサカキなどの常緑樹に妨げられて伸びられずにいるツツジ（コバノミツバツツジ）を生かそうという目標を立てて、繁り過ぎているヒサカキにちょっと遠慮願う（つまり切り倒す）。この作業は、いつからかツツジの園づくりという呼び方がされるようになった。またある時は、ヤマザクラの大木にもっと元気になってもらおうと、周囲の木々を整理する。あるいは、勢力が強すぎて尾根筋を越えてきた竹（モウソウチク）の侵入にストップをかける。方形杵を設定し、植生を把握して、残す木・切る木の方針を決めて、前後の記録をちゃんと取って、・・・という作業なのでなかなか捗らないが、必要な工程だと思う。



写真2 切った竹の枝を払う

竹の除伐は、腰程度の高さで切って、切り株の節を抜いておく。こうすれば雨がたまって根際から腐って除くことができる。

普段行っている自然観察会では、木を切り倒すなどという行為は御法度ということになっている。そのせいかどうか、結構重労働なのだが、何とも楽しくて仕方がなかったことを告白する。

雑木林インストラクター養成講座

相生山オアシスの森予定地を舞台に、天白社会教育センター主催の「雑木林インストラクター養成講座（入門編）～市民が育てる雑木林～」なる講座が今年の1月～3月にかけて行われた（資料2）。本協議会のメンバーの篠田陽作さん（第一回を担当。以後も積極的に参加）、近藤さん（前出。昼食後の30分ほどを担当。ネイチャーゲームや植物の冬越し・冬芽の観察など）も講師として参加された。

資料2

雑木林インストラクター養成講座 （入門編） ～市民が育てる雑木林～ プログラム

1997年

1月25日

触れよう、雑木林

～森のマップづくり～

2月1日

きって育てる、雑木林

～柴刈りによるシンボルツリーづくり～

2月15日

歩いて見つける、雑木林

～森のルートづくり～

3月1日

雑木林の公園づくり

～間伐木によるスツールづくり～

3月15日

わたしの“雑木林”

～クラフトと森の掬づくり～

初めにも触れたが、「オアシスの森づくり」の一つのキーポイントは、市民の主体的な参加という点にある。そこで、供用後の維持管理を任せられる人材を育成しよう、という狙いもあって催された講座である。そんな思いが出たせいか、かなり気張った講座名になって、中には何らかの資格が貰えるものと勘違いした受講希望者もいたらしい。

定員30名のところを大幅に上回る受講希望者があり、抽選もれで多くの人が門前払いに

なったとのこと。折角の熱意を無にするようで心苦しいという声も出たが、社教センターの講座は定員を守るのが原則なんだそうだ。

毎回、異なるテーマで、午前10時から夕方3時から時に4時近くまで、受講者の数に匹敵するかあるいはそれ以上の数のスタッフとともに賑やかに行われた。受講の抽選に外れて、それでも諦めきれずに、雑木林研究会に入会してスタッフとして参加したという熱心な方もみえた。参加者の年齢層は20代から70代と巾広く、年配の方もかなりいたが、どなたも実に熱心に、そして楽しげに活動していた（写真3～7）。



写真3 竹を切る受講者

（第3回 「歩いて見つける、雑木林」の一コマ。設定したルートに竹林があったため、この日のこのグループの作業は、殆ど竹を切るだけだった。）



写真4 ビートルアップート

（除伐した竹を組んで枠を作り、中に間伐で出た広葉樹のチップを入れた。カブトムシがやってきてくれるかどうか楽しみ。）

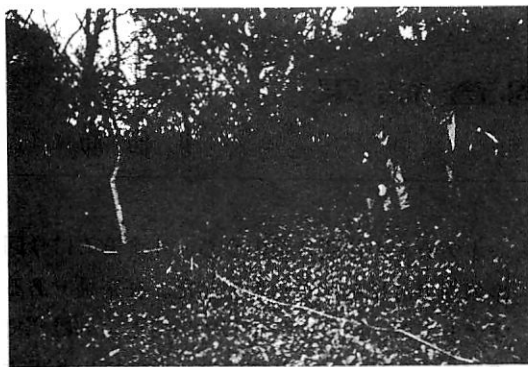


写真5 ルート設定
(第3回 「歩いてみつける、雑木林」の一コマ。周りの植生、老人・子どもでも安全か、動物に優しいかを考えて道をつける。)



写真6 間伐木を使って作ったスツールとテーブル？
(第4回 「雑木林の公園づくり」での作品)



写真7 植物の冬越し(ロゼット)観察
(昼食後のひととき、近藤さん担当の観察会の一コマ。他に冬芽の観察、「はじめまして」「宝さがし」などのネイチャーゲーム、小枝をつかった写真立てづくりなどを行った。)

講座の最終日に参加者(スタッフを含めて)を対象に市民参加の森づくり・公園づくりに関するアンケートを実施した。結果を見ると、い

ろいろな作業に積極的に参加したい、森づくり・公園づくりに関わっていきたい、除伐・下草刈りなどを行ってある程度管理していくのは必要だ、などの意見が大勢を占めた。そうしたことに興味を持って参加した人が殆どなのだから当然といえば当然の結果ではあるが、講座の最初に同様な調査をしていたら、きっと違う結果が出ていたように思う。

おわりに

以上、大雑把に「相生山緑地オアシスの森」とそこで行われてきた活動の紹介をした。基本的な理念や管理方法について共感できる部分が多く、このまま発展していった、市街地の真ん中にあるという、まさに身近な自然との触れ合いの場ができることを願っている。しかし、この「オアシスの森づくり」が、公園整備事業に着手するまでの間、とうたってある部分が気になっている。従来から都市公園整備の名のもとに、どのような自然破壊が行われてきたかは、今更言うまでもない。事業推進側のこれまでの対応からすれば、そんなに心配することはないと思っているが、それとは別に、相生山緑地を分断する道路計画が現にある。写真1で緑地の北側3分の1ほどを南北に分断する2重の一点鎖線が見えるが、これが弥富相生山線という計画中の道路で、かなり広い幅員の道路と聞いている。道路が通れば、その両側が広い範囲で影響を受けるのは必至である。

相生山緑地オアシスの森では、平成10年度の供用開始を目指して、今後も「柴刈り大会」が何度か計画されているし、社会教育センターの「雑木林インストラクター養成講座(応用編)」が平成9年度年間を通して行われる。

多くの人々が森を訪れて、その価値を感じとってくれることを期待している。

なお、「柴刈り大会」への参加・見学は特に規制を設けていないので、お問い合わせ(☎0569-21-3497 榊原)いただければ、日程等ご案内します。

ひつつき虫の調査結果

事務局

平成8年度の環境庁「身近な生きもの調査」
として、「ひつつき虫調査」が行われました。
ひつつき虫とは、動物にくっついて運ばれる植
物の種子のことです。

協議会でもこの調査に協力して、ある程度の
調査を行いましたので、その結果をまとめてみ
ました。

※ ※ ※ ※

1 調査対象種

- オナモミ・オオオナモミ・イガオナモミ
- タウコギ・アメリカセンダングサ・センダ
ングサ・コセンダングサ・コバノセンダン
グサ
- ヒナタイノコズチ・ヒカゲイノコズチ・ヤ
ナギイノコズチ
- キンミズヒキ・ヒメキンミズヒキ・チョウ
センキンミズヒキ
- ノブキ・ウマノミツバ・ミズヒキ・ハエド
クソウ (18種)

2 調査個所数

70ヶ所

3 調査参加者

石川静雄、石黒 誠、稲葉美代子、岩瀬直司、
鬼頭 弘、小柳清男、佐藤国彦、柴田諭子、
鈴木千夜子、鈴木友之、間瀬美子、丸山 嵩、
吉川洋行 (13名)

4 調査結果

(1) 見られた種類

調査個所数が少ないため、県内の正確な情報
とは言えないでしょうが、種類毎の傾向をみて
みましょう。

オナモミの仲間3種のうち、オナモミは今回
の調査では見られませんでした。在来種である
オナモミは、県内に分布していてもよいはずで
すが、帰化種におされて少なくなっているのだ
しょうか。メキシコ原産と言われるオオオナモ
ミは多く見られ、戦後帰化したイガオナモミも
分布を広げているようです。

センダングサ類の5種のうち、コバノセンダ
ングサは見られませんでした。アメリカセンダ
ングサと世界中に広く分布しているコセンダン
グサは県内各地に多く見られます。タウコギと
センダングサはそれぞれ1カ所で見られただけ
でした。タウコギは日本全土に、センダングサ
は関東以西に分布しているようですが、ともに
環境の変化や帰化種におされて減少しているよ
うです。

イノコズチ類3種では、ヤナギイノコズチ
(分布は関東以西)は見つかっていませんが、
ヒナタイノコズチとヒカゲイノコズチは各地に
分布しています。

キンミズヒキ類3種のうち、キンミズヒキは
多く見つかっていますが、ヒメキンミズヒキは
少なく、チョウセンキンミズヒキは見られませ
んでした。

その他のものでは、ミズヒキが多く見られ、
ノブキも山地を中心に見られましたが、ウマノ
ミツバ・ハエドクソウは今回の調査では見られ
ませんでした。

(2) 地域別の状況

10kmメッシュで地域別の状況をまとめると、
表1のようになります。

今回の対象種では、ほとんどの地域でも見
られるものと思われますが、平野部でよく見ら
れるオオオナモミ・アメリカセンダングサ・コ
センダングサは、山間地では少なくなっていま

表1 ひつつき虫調査結果(地域別)

メッシュNO	場 所	調査 個所	種 名														備考
			2	3	4	5	6	7	9	10	12	13	15	17			
D 7 0	瀬戸市	1				○			○		○						
D 6 0	守山区・尾張旭市	3						○	○	○							
D 5 0	東郷町	1	○					○									
D 4 0	豊明市・豊田市	3	○			○		○	○	○							
C 4 7	緑区・東海市	1 0	○	○		○		○	○	○					○		
D 6 5	豊根村	1							○		○			○	○		
D 6 4	稲武町	2								○	○				○		
D 5 4	設楽町	1								○					○		
D 4 4	作手村	1				○			○	○		○	○	○	○		
D 3 3	作手村	1				○		○	○	○	○			○	○		
D 2 4	新城市	5	○			○		○	○	○	○				○		
D 2 3	一宮町・豊橋市	7	○			○		○	○	○	○				○		
D 2 2	音羽町・豊川市	3				○		○	○	○	○				○		
D 1 3	豊橋市	1 1	○	○		○		○	○	○	○	○			○		
D 1 2	小坂井町・豊橋市	3	○			○		○	○	○							
D 0 3	豊橋市	1 6	○	○	○	○		○	○	○	○			○	○		
D 0 2	豊橋市	1		○				○	○								
B 7 1	田原町	1						○	○								

〔種名〕

2:オオオナモミ 3:イガオナモミ 4:タウコギ 5:アメリカセンダングサ
6:センダングサ 7:コセンダングサ 9:ヒナタイノコズチ 10:ヒカゲイノコズチ
12:キンミズヒキ 13:ヒメキンミズヒキ 15:ノブキ 17:ミズヒキ

すが、これら帰化種の生育適地が少ないためでしょう。一方、林縁などのやや日陰にも生育できるヒカゲイノコズチ・ノブキ・ミズヒキなどは山間地にも見られます。

これ以上のことは、調査数が少なく、調査地域が片寄っているためわかりませんでした。

(3) 環境別の状況

今回の調査をしてみて、環境区分が以外と難しい気がしました。林道と林縁や、造成地が草原となっていたり、池の周辺が草原になっている場合など、どちらに区分していいか迷うことがよくありました。厳密にはその場所の植生を見て決めるのですが、調査はそこまでき

ちりされていないと思われます。

しかし、環境別の状況は表2に見られるように、おおよそ植物毎の特徴が出ています。

表2では、細かすぎて解かりにくいので、その下に参考として環境区分を大まかにした出現率を記号で表してみました。

それによると、オナモミ類は川原や都市環境に多く、コセンダングサは各環境ともによく見られ、アメリカセンダングサも同様でした。イノコズチ類も環境による差異はそれほどはっきりしないようです。それに対して、キンミズヒキ・ミズヒキは、森林の周辺に多いという結果がでています。

表2 ひつつき虫調査結果（環境別）

環 境		調 査	植 物 名														出現 種数
			2	3	4	5	6	7	9	10	12	13	15	17			
1-a	雑木林(沢沿い)	2				1			1	2	1	1	1	2	7		
1-b	雑木林 (林床)	1					1			1	1			1	4		
1-c	雑木林 (林道)	2	1			2		2	2	2	2			2	7		
1-d	雑木林 (林縁)	7	1			2		6	4	5	3			3	7		
2-c	マツ林 (林道)	2	1			1		2	1	1	1				6		
2-d	マツ林 (林縁)	1	1					1	1						3		
3-d	人工林 (林縁)	3				1		2	3	1	2		1	2	7		
4-c	人工林 (林道)	5	1	2		3		3	4	3	4	1		4	9		
4-d	人工林 (林縁)	5				1		1	3	1	4		1	3	7		
6	背の高い草原	3	1					1	1	1	1			1	6		
7	背の低い草原							1	1	1	1				4		
8	畑の周辺	10	3			2		7	7	1	4			1	6		
9	未舗装の道路	1	1	1											2		
10	都市公園	2	1			1		2	1	2	2				6		
12	グラウンド	1								1				1	2		
13	造成地・埋立地	2	2	1		1		2	2						5		
14	田の周辺	8	4			5		6	6	4	2			2	7		
15	湿地・休耕田	3			1	2		1	2	1					5		
16	池沼の周辺	6	4	2		3	1	5	4	2	2				9		
17	川原	5	3			2		4	3	2				1	6		
出現個所数			13	4	1	14	1	17	17	17	14	1	2	12			

* 植物名の番号は、表1と同じ。

（参考） 環境を大まかに見た場合の出現率

環 境		調 査	植 物 名													備考
			2	3	4	5	6	7	9	10	12	13	15	17		
出 現 率	森林とその周辺	28	○	○		○		◎	◎	◎	◎	○	○	◎		
	農地・草地	25	○		○	○		◎	◎	○	○			○		
	池沼・川原	11	◎	○		○	○	◎	◎	○	○			○		
	都市・造成地	6	◎	○		○		◎	◎	◎	○			○		

出現率： ◎ 50%以上 ○ 25～49% 〇 25%以下

〔ツバメの巣調査への協力依頼〕

平成9年度の環境庁「身近な生きもの調査」は「ツバメの巣調査」になりました。協議会として全面的に協力したいと思っていますので、多くの方が実施されるのを期待しています。

調査は、各支部にも担当者を置いて、その人を中心に進めたいと思っていますが、個人々々で調査して、その結果をお送りいただいても感謝します。

なお、イワツバメとコシアカツバメはこの機会に分布の状況を把握したいと考えていますので、特にお願ひします。

●方法……下の調査表をコピーして、各項目に記入のうえお送り下さい。（最後の「その他」の項目はわかれば記入してください。）

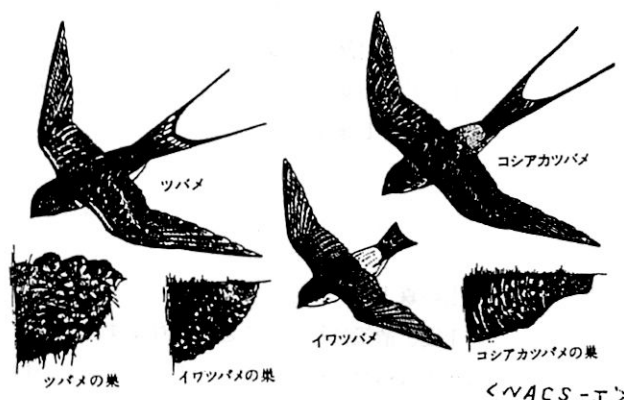
なお、環境庁への報告は、所定の様式に写真を添付することになっています。従って、写真（巣のある建物等の全景、巣の部分の2枚）をつけていただければ、様式に書き直して、調査者名で環境庁へ送付します。写真がない場合に

は参考としてこの様式で環境庁へ送付します。また、ツバメの名前に自信がない場合は、必ず写真を添付してください。

環境庁へ直接送付される場合は、そのコピーを事務局へお送りいただいても結構です。（環境庁所定の様式は、ご連絡いただければお送りします。）

●期限……平成9年8月15日

●送付……事務局（佐藤国彦）または各支部担当者



ツバメの巣調査表

調査者		NO		
種名	調査地			
環境	1 ビル街	2 商店街	3 家の多い住宅地	
	4 緑の多い住宅地	5 農村	6 漁村	
巣のあった場所	7 大きな川	8 海岸	9 山地	
	種類	1 一戸建住宅	2 1～2階建集合住宅	3 3～5階建集合住宅
		4 6階以上の集合住宅	5 一戸建商店	6 ビル(会社等)
		7 官公庁	8 駅・バスターミナル	9 学校
		10 ガソリンスタンド	11 旅館	
	様子	12 山小屋	13 牛舎	14 豚舎
		15 その他()		
		階数	1 1階	2 2階
		場所	1 外壁	2 軒や庇の下
	橋等	3 室内	4 階段室	5 ガレージ
		見え方	1 外から見える	2 見えにくい
		位置	1 ざらざらの壁に	2 つるつるの壁に
見え方		1 外から見える	2 見えにくい	
その他	3 梁などに乗っている	4 電灯等に乗っている	5 その他()	
	場所	1 アーケード	2 歩道橋	
	3 コンクリート橋	4 鉄橋	5 道路や鉄道の高架	
	6 ダム	7 その他()		
巣の数	位置	1 壁についている	2 梁などに乗っている	
	見え方	1 外から見える	2 見えにくい	
	3 電灯に乗っている	6 その他()		
	巣を作り始めた時期			

愛知県で残したい自然

前回の機関紙で募集した『自然なにかとアンケート』の第2回は「愛知県で残したい自然」という質問でした。県内には手付かずの自然はほとんどありませんが、それでも観察会や自分のフィールドなどで次の世代にまで残しておきたいと思う自然はあるはずです。

13名の方からご返事をいただきましたので次にご紹介します。

♡ ♡ ♡ ♡ ♡

海上の森！

1度、散策に行ったことがあります。とてもステキな所だと思います。今のままなら。万博なんかで、こわされたくありません。

藤本知重子（名古屋支部）

東谷山

理由：馴染みのある場所だから

福西寿広（名古屋支部）

宮路山（音羽町）

藤原優年（東・奥三河支部）

作手村長ノ山湿原

理由：私を育ててくれた場所であるため

山田恵一郎（奥三河支部）



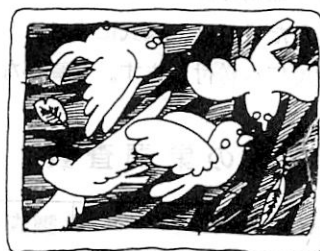
フィールドに出れてないので、あまりよく知りません。どんなところも、気に入るところは1つはあります。

私にとって、残したいのは、その時、私のいる場所、私のいる自然です。

仲 芳則（名古屋支部）

やはり、海上の森、藤前干潟です。野鳥の宝庫であるため。行政に反対する感じがすみません。

小木曾 浩（名古屋支部）



近い所の小さな場所ですが、是非残して欲しい所をあげました。

・東山裏山池（丸池）周辺

水が涸れない様、保って欲しい（周辺の林、草地も含めて）。

毎年約束していた様に蛙の卵、それをねらうザリガニ、ヘビがみられる。子どもたちにも春の生命の躍動が感じられる約束の場所だから。

・島田湿地

市内にあって生物（トンボ）のサンクチュアリetc。造成工事が行われた場所にたとえ後から池が作り直されたりしても、決してとりもどせない植物、動物が細々と生きているから。

自然のしくみの良く解る場所だから。

・猪高

同上

森下京子（名古屋支部）

東浦町飛山池

県下のオニバス生育地は、そのほとんどが絶滅するが飛山池では生存している。地元の自然観察員各位がお世話され、1996年もその姿を見ることが出来た。その他、ウキヤガラ、ウキシバ等珍しいものも残っている。かつてカモが多く飛来していたが、今は少なくなり、動物の方では価値が低くなったと言うが、植物の方では、第1級の所である。しかし、地元民の話では、町当局により開発して観光池にしたいとのこと。同町於大公園内の池のようにされたら大変である。池の周囲の小道もなく、観光施設のない今のままで結構。是非この池を保護してほしい。同時に出来るだけ早く、県自然環境保全地域に指定されることを希望する。

佐藤徳次（顧問）

大自然とか、貴重種のある…と言った所も大切ですが、最も身近にある自然を大切にしたいし、残したいと思う。名所は、多くの人が声高に大切だと叫ぶが、身近な所は忘れがちである。しかし、身近な所も、同様に大切なことを知る必要がある。なぜなら、それは生活圏なのだから…。

近藤記巳子（名古屋支部）

県で残したいアンケートについて、近郊では、いい所は皆無ではないでしょうか。もしあってもあまりにも狭い、小さな場所です。その他は人工的な公園になってしまっています。（その他は私有地です。）

いづれにしても残したい自然というところは少し離れた交通の便が悪く、従って一般の方が行かない場所です。こういう所は幸いまだ沢山あります。でも、あまり公表したくないですね。

青木雅夫（名古屋支部）

『愛知県で残したい自然』という意味は、この場所とこの場所を残して、あとは、開発されてもしかたがないということなのではないでしょうか？私にはよくわかりません。今残っている自然はすべて残してほしいです。私はまだ観察会の経験も浅く、地元のことがわかりません。しかし、残っている自然というのは、かなりの部分が人によって保護されてきているのではないのでしょうか。私が特に保護してほしい自然は“川”です。川の沿岸は建設省が担当されているようで、きれいに整備されていて不自然です。自然な川は蛇行しており、カーブの所に生物が住んでいます。水は生命の源だと思います。人工的な真っすぐな川を、工事して蛇行させよというのはなかなか難しいでしょう。よって、自然な川は沿岸工事などせずに自然なままに残してほしいです。あと、寺や神社のまわりの自然は昔からのものが多いと思うので残してほしいのです。

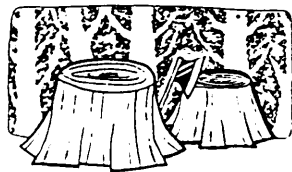
不 明

どこの自然を如何なる理由で、といった具体的なものはありません。しかし、少くとも現在、緑地または自然公園等の指定のなされている地域・地区の自然は絶対に、現状以上の破壊を認めないようにしたいものです。

妹尾幸雄（名古屋支部）

稲武町在住3年間で、面ノ木のすばらしい紅葉がとても印象に残っています。ぜひとも手を加えずに残しておきたいものです。

荒巻敏夫（東三河支部）



会員の近況

会員の皆様の近況が届きましたのでお知らせします。

※ ※ ※ ※ ※ ※

現在鳳来寺山自然科学博物館友の会にも末席にて加入しております。出来る限り、自然観察会等に参加させて頂きたいと考えておりますので、宜しく御指導の程、お願い致します。

山田恵一郎（奥三河支部）



音羽町のホ乳類の調査をしています、ホ乳類の調査は難しいですね。効率のよい方法はないものでしょうか。

いものでしょうか。

藤原優年（東・奥三河支部）

仕事等が忙しく自然観察指導員の活動を全く行っていないので本当に心苦しく思っております。いつか登山活動の復活とともに、指導員の活動に少しずつでも貢献できるようにしたいと思っております。当面、子供を連れていける年齢になったら西区近辺での活動に参加できることを目標にしたいと思っております。

小野木三郎（名古屋支部）

大変ご無沙汰しておりますが、お元気でみえられますか？

うちの子供たち2人、4歳と3歳になりましたので、そろそろ子供を連れて、フィールドに出てみたいと思っています。

小木曾 浩（名古屋支部）

毎回同じ事しか書いていませんが、相変わらず山通いが続いています。

年間70日位は山に行ってますから、ならすと週に1日以上は出かけていることになります。

冬の間はクロカンスキーに出かけることが多いです。今年は戸隠、草津白根、乗鞍、美ヶ原に出かけました。

今晚から日光の戦場ヶ原に出かけます。雪上観察でもじっくりやれば良いのですが、歩き回るばかりで、観察はおざなりです。

そんな事で、協議会の行事にも参加できず申し訳ないです。

福西寿広（名古屋支部）

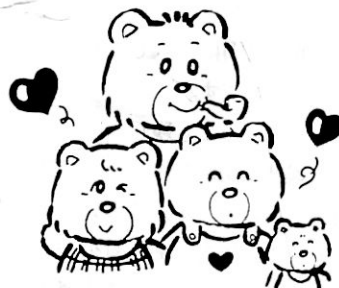
自分のせいでやらなければいけないことが溜っています。

もうパニックです。身も心も！

仲 芳則（名古屋支部）

結婚、出産、育児で、半田市に来て以来、観察会の活動は、ほとんどできませんでした。2才と1才の子は、まだまだ手がかかりますが、そろそろ参加できるものから、したいなとひそかに思っています。しかし、全くといっていい程、経験も知識もなく、とっても不安ではあります。

藤本知重子（名古屋支部）



相生山緑地自然観察会をスタートさせて、6年めになります。今年は、シリーズ観察会「里山の自然を探ろう」のフィールドになりました。

スタッフ一同はりきっています。

近藤記巳子（名古屋支部）

総会にも例会にも出席できずに、いつも大変申し訳なく思っております。幼児から小学低学年と一緒に近い所の観察会に明け暮れております。たった5年の間にも、環境が大きく変わって来ている事を痛感します。

森下京子（名古屋支部）

私達（主人79才、私73才）夫婦の近年の日常生活リズムをお知らせします。

主人は歩くこと（雑木林や草原）等大好き又油絵を画くので風景を絵ととらえる。

私は主婦の役をこなしながら出来るだけ主人の歩きに同行します。

又週一回の謠曲を楽しみます。

二人で古道、旧跡を尋ねながら自然観察のおさらいと、偶然謠跡に出会い一層心入れを感じます。

近くの本曾川堤を中心に、国の内外共に上記の事を心掛け、毎日が大切な日々を送っています。

おかげさまで二人が共通の興味を持ち元気で過ごして居ります。

後藤 春（尾張支部）



観察のための勉強に生態写真やイラストを描いて来たが、今年は、イラストを主体にして、作品としての質を高めていくつもりです。

できれば、一年の成果を発表できたら・・・と考えております。今年1～2月に開いた東山植物園でのガイドによる作品展は好評につき来年も開催が決ったこともあり、そのための作品も制作したい。

青木雅夫（名古屋支部）

私どもの自然との関わりは、専ら、山登りと秘湯を求めての温泉探求、そして冬はスキー、四季折々の変化に富んだ雄大な自然を満喫しております。

自然観察会、全くのご無沙汰で恐縮いたしております。ご寛容ください。

妹尾幸雄（名古屋支部）



自然観察会で研さんに努め、勉強させていただき、いつかお役に立たなければ・・・と常に思っていますが、いつも何かが起きてしまいます。本気になって活動をさせていただけるのは、あるいは退職してからかも知れません。

仕事と家事以外は何もしなければよさそうなものですが、生涯教育センターやカルチャースクール等に心が動いてしまいます。自然も好きですが、人間も好きです。人間も好きですが、自然も好きです。

野々村由紀子（名古屋支部）

名古屋自然観察会

なんじゃもんじゃ通信

愛知県自然観察指導員連絡協議会 名古屋支部・愛知郡長久手町大字長瀬字丁子田17-62 Tel.0561-61-4140 支部長 浅井聡司 方

名古屋支部 活動予定

- 5月 4 (日) 9:30 大森湿地自然観察会－風と緑
 10 (土) 13:00 猪高緑地自然観察会－(名東の日) <御岳山周辺>
 11 (日) 9:30 大高緑地自然観察会－新緑と昆虫
 18 (日) 9:30 東山自然観察会
 21 (水) 18:30 室内例会<名古屋市教育館第1研修室>
 (テーマ: シリーズ観察会・相生山<10月25日>の実施計画)
 24 (土) ~ 25 (日) (協) 視察研修－<大台ヶ原>
 25 (日) 9:30 相生山自然観察会
- 6月 1 (日) 9:30 大森湿地自然観察会－雨と水の流れ
 8 (日) 9:30 大高緑地自然観察会－コモウセンゴケの花を見る
 14 (土) 9:30 猪高緑地自然観察会
 15 (日) 9:30 東山自然観察会
 18 (水) 18:30 室内例会<第1研修室> (テーマ: 未定)
 22 (日) 9:30 相生山自然観察会
 (協) シリーズ: 里山の自然

活動報告

大森自然観察会だより

猪高緑地便り

ひがしやま通信

大高緑地自然観察会

相生山緑地自然観察会

尾張支部行事予定表

1997年3月～12月

月例観察会	集 合 場 所	時 間	連 絡 先
第一日曜日	森林公園 案内所前	9時～12時	05613-8-2792 鬼頭 弘
第二土曜日	定光寺 山門前駐車場	9時30分～14時	0572-23-6907 大谷俊和
第四土曜日	名鉄広見線 善師野駅前	9時～14時	052-502-1020 平井直人

室内例会（偶数月）は、第一日曜が原則ですが変更する場合があります。

支部通信でお確かめください。

特 別 観 察 会	観察会の場所・集合地等
4月29日（火） （祝日）	藤原岳 近鉄名古屋駅7時31分発に乗車 担当：北岡明彦 0561-84-2953
5月11日（日）	滋賀県マキノ町（車に分乗して行く予定です。） 担当：平井直人 052-502-1020
5月18日（日）	犬山市委託 本宮山（秋の予定が変更になりました。） 担当：山田博一 0574-65-1541・大竹 勝 0568-61-3659
6月14日（土）	シリーズ自然観察会 善師野（午後と夜：はたるの観察） 担当：近藤義裕 0586-87-7938・山田博一 0574-65-1541
7月26日（土）	伊吹山（車に分乗して行く予定です。） 担当：斎竹善之 0587-37-7616
8月11日（月） ～12日（火）	白山（車に分乗して行く予定です。保険は別掛けになります。） 担当：入谷精一 0561-21-6592
9月21日（日）	愛知县委託（兼犬山市委託） 善師野 担当：福富裕志 0568-68-1896

—自然観察会実施結果—

2/22 (日) 東浦地区

東浦町森岡公民館へ25名集合。暖かい日でした。

妙法寺の里山で観察。小学生は鳥よりも地上の生き物をすぐ探した。木々や藪などに来る鳥を待ち、双眼鏡やテレスコープで探した。

村木神社にも寄ったし、田や畑も見た。東浦地区の長江貯木場には貯木は全くなり、埋立が進んでいた。土手にアオサギが30羽ばかりいた。日溜りで風の当らない場所のようだ。

ハシボソガラス・ジョウビタキ・ホオジロ・ツグミ・ヒヨドリ・スズメ・キババト・シジュウカラ・ヤマガラ・ヒガラ・ムクドリ・モズ・ハクセキレイ・タヒバリ・ウグイス・ヒバリ・スズメ・アヤジ・カワラヒワ・セッカ・キジバト・ノスリ・オオバン・ハシビロガモ・スズガモ・マガモ・カルガモ・ホシハジロ・カワウ・ヒドリガモ・オナガガモ・キンクロハジロ・アオサギ・カイツブリ

〔伊藤、岩崎、加藤、降幡、村瀬〕

3/30 (日) 桜原公園 晴

常滑地区自然観察会を桜原公園で実施。夜明けまで雨が心配でした。約20名の参加でした。

子供は植物より動くものが大好き、トカゲ・カエルをすぐ捕まえた。大人はグループになり、植物探し。一時間ばかりの散策でした。

タンポポ・ワラビ・ヒメオドリコソウ・ヨモギ・サクラ・ニワトコ・オニタビラコ・ヒヨドリバナ・ニオイタチツボスミレ・ヤブカンゾウ・ハコベ・ハハコグサ・クコ・ナズナ・オランダミミナグサ・ツバキ・カラスノエンドウ・スイバ・ノゲシ・タネツケバナ等を取り、天ぷらにして食べた。

最後に四季の歌を唄って解散。

〔相羽、石原、大橋・加藤、榊原(靖)、鈴木、中井(三)、降幡、村瀬〕

4/6 (日) 日長海岸 小雨

知多地区自然観察会。知多市地域文化センターに集合して日長海岸へ移動した。

海岸駐車場には、車が多数駐車していた。海岸にも、潮干狩り、釣り、犬の散歩など多数の人がいた。

私達は、ガラス・貝殻・海草・おもちゃ・流木の皮などを集めて回った。途中からガスが発生し視界が悪くなり、漂流物集めは中止した。

駐車場で荷物を整理していたら、「貝をとったの」「ううん」「釣りをしたの」「違うの、貝殻やゴミ集めたの」と答えたら変な顔をしていた。

集めた物は、半田市の博物館の展示品として使用する。

〔大橋、加藤、神野、中井、降幡〕

4/13 (日) 於大公園 晴

於大公園で「春の野草の観察・試食」を実施した。20名集まった。

乾坤院の庭・西田圃・畦道・石垣等を見て回った。日射しは暑く、衣類を脱ぐ人もいた。

タンポポ・キュウリグサ・ヨモギ・オオイヌノフグリ・スズメノエンドウ・カラスノエンドウ・セリ・スギナ・カタバミ・ホトケノザ・イタドリ・スイバ・スズナ・タビラコ・ツクシ・シロツメクサ・スズメノテッポウ・ハハコグサ・スズメノヤリ・アケビ・ツリカネニンジン・リョウブ・ハルジョオン・ヤブタビラコ・タネツケバナ

おしたし・天ぷらにして食べた。

〔加藤、降幡、村瀬、深谷、岩本、竹内、桑原〕

事務局から

〔行事結果〕

★ 理事会（第1回）

〔期日〕平成9年3月3日 13:30～16:20

〔場所〕名古屋市公会堂集会室（出席13名）

〔内容〕

① 自然観察会

平成9年度の県委託観察会は、運営の面で反省点も多いので、初心に返ってきっちりとしたものを行うようにする。シリーズ観察会のテーマは、「里山」にする。

② 研修会

指導員研修会として1泊の会を何か考える。
そのほか意見交換を行う。

〔主な意見〕

- 観察会に新しい指導員が来てくれるようなものを考えたい。
- 県委託観察会では、参加者1人当たり千円位の金をかけている計算になるので、それに合う内容にするべきではないか。
- 里山の観察会では、人との係わりなども重視する必要がある。地元の人の話を聞くとか歴史を加えることを考えてもよい。
- 自然観察指導員の会であるから、新しいことや他ではやっていないようなことも積極的に取り組む必要がある。研修会もそれに向けたものを考えたい。

★ 総会

〔期日〕平成9年3月23日 13:40～16:30

〔場所〕県産業貿易館（出席26名）

〔総会〕

第1号議案 平成8年度事業報告

第2号議案 平成8年度決算報告

第3号議案 平成9年度事業計画

第4号議案 平成9年度決算予算

第5号議案 会費の値上げについて

以上の5つの議案が提出され、予算の計上内

容に関する質問があった他は特に意見もなく、原案通り可決されました。なお、総会参加者が少なかったのが寂しい気がしました。

〔講演会〕

● 「里山を守るために」

講師：金谷 薫（大阪自然環境保全協会）

大阪自然環境保全協会では、15年前に里山のシカ調査等の里山に関する活動を始めており、現在は「里山体験講座」を行っている。その受講生により11の団体ができて、里山の管理の実践活動を行っている。その内容は地主の要望等により枯木の除去・林床整備・下草刈り・歩道整備などで、併せて自然観察・山菜取り・シイタケ育成など参加者の楽しむような行事も行っている。

なお、こうした里山に入っているいろいろな管理活動をしようという動きは他府県にもあり、愛知県環境部でも計画を持っているようです。

〔意見交換〕

講演会の後、自由なテーマで意見交換会に行いました。主な内容は、子供を対象とした自然観察会のやり方でした。結論としては、子供と一緒に楽しむこと、子供にうまく興味を持たせる努力が必要ということだったと思います。

〔懇親会〕

総会終了後、近くで懇親会を行いました、参加者は12名でした。

☆ 話題の地見学会「東濃のシデコブシ」

〔期日〕平成9年4月12日（出席7名）

〔場所〕多治見の自生地、土岐市の自生地、瑞浪市の自生地2カ所の計4カ所をそれぞれ見て回りました。特に、土岐市のものは湿地の中にシデコブシが多く自生し、ハルリンドウなども咲く素晴らしい場所でした。内容は、次の機関誌でお知らせします。



〔会員からの意見〕

前回の機関誌配布の折りにお配りした葉書に協議会に対する意見等があったのは、次の3件でした。

- 北海道では、全道の1か月の予定（自然に関するもの、自然観察会、探鳥会等）が小さなブックレットになって発行されています。愛知でもそのようなものができたらなあと思います。

（本来なら少なくとも協議会の行事は、年間の一覧表のようなものを作るべきでしょうが、協議会の行事の日程がなかなか決められないことや支部も含めると行事が相当多いこともあって、作れないでいます。かつては、作ったこともありますので、今後復活することを検討したいと思います。なお、余談ですが、協議会の研修会等の参加者が少ないことに事務局として悩んでいます。行事をお知らせするのが遅いことなども原因でしょうが、会員から希望する研修内容等を事務局へ寄せていただき、併せて積極的に参加していただくことをお願いします。研修会等の参加者が少ないと、恥ずかしくて外部講師も呼べず、それが研修内容を幅の狭いものにするという悪循環になりつつあります。）

- 機関誌の作成は大変な労力だと思います。各地の情報を楽しく知ることができたらありがたいです。

（私たちのような会では、機関誌の大きな役目として、県内の自然に関する情報提供があると思っていますが、その情報を集める体制ができていないのが問題のようです。機関誌で自然に関する情報があればお送りくださいと呼びかけても、まず反応がないのが通例です。事務局や支部などで情報を集めるシステムを作る必要があります。各支部で、地域の情報を集めて協議会事務局で整理するようなことができないか、一度検討してみたいと思います。）

- やる気のある指導員を発掘することをして欲しい。そのために新しく会員になられた人たちだけでチームを作り、方策を考える。そのうえで指導員としての自覚を持ち、会の運営に積極的に参加していただく。今のままでは尻すぼみで発展が望めない。

（現在のところ指導員の能力を高めるようなことは、各支部に任せて、通常其自然観察会活動のなかで勉強し、力をつけてもらうような体制にあると言えるでしょう。しかし、実際は観察会の実施に追われて、十分ではないと思われます。また、協議会として取り組むには、事務局が通常の事務等に追われて余裕がないことと、観察会のベテランたちは忙しい方が多く、講師として何度も頼みにくいことがあります。講習会を受けて後に観察会の指導者としての実力をつけていく方は、ほとんど本人の努力で、協議会として大したお手伝いできないのは、事務局として寂しい気がします。自然観察会の目的の検討、観察技術の向上、指導員の養成に力を発揮できなければ、自然観察指導員の連絡協議会という名前が泣くことでしょうし、実際にご指摘のように会の発展もないでしょう。その主たる障害となっている事務局体制の強化は、創立以来の課題であります。ほとんど改善されていません。事務局を構成する人が多ければ、いろいろな事業に取り組むことができますので、企画や運営等とともに活動していただける人を待っています。会員400人という会を運営するには、いろんな面で私（佐藤）自身の能力不足を感じることも最近是多々あります。愚痴ばかりでしたが、事務局体制を強化するための具体的な案を持って参画していただける方はいないでしょうか。）



〔お 知 ら せ 〕

★ 会費の値上げについて

この3月の総会で会費の値上げが承認され、今までの2,500円から3,000円となりました。(家族会員は500円としたため、2人の場合は3,500円で今までと同額です。)

さらに最近、支部活動の活発化により、支部の会費を取るところも増えてきましたので、会員にとっては額が大きくなって大変なことと思いますが、よろしくご協力をお願いします。

会費が高くなれば、元を取るためにも会の行事に参加したり、いろいろ意見を言うことも大切だと思います。どうか遠慮なく言ってきてください。

★ 尋ね人? (お尻の白いマルハナバチ)

NACS-J(日本自然保護協会)から、お尻の白いマルハナバチである「セイヨウオオマルハナバチ」を見たら知らせて欲しい旨の依頼がありました。

このセイヨウオオマルハナバチは、トマトの受粉用に輸入されましたが、抜け出して野生化しているのが北海道で昨秋見付き、静岡県でも野外で見られています。広範囲で飼育されているため、他の地域でも野生化の可能性があります。これは競争力が強く、在来種(14種)の果に入って自分の果にしてしまうとも言われ、在来種と交配の可能性もあり、広がると在来種などに大きな影響を与える可能性があります。

セイヨウオオマルハナバチは、体長約1.5cmで、全体に黒っぽい毛がふさふさとしていて、腹部の先端部が白色で覆われているのが特徴です。

見かけた方は、次のところへご連絡をお願いします。

〒305 茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学生物科学系 鷲谷研究室内

保全生態学研究会事務局

★ 協議会に対する意見、近況等について

前回の機関誌をお送りした際に、葉書を同封して、協議会の意見等を書いていただくようお願いしましたが、事務局へ送られてきたのは僅かでした。

事務局として、会員の考えを聞く機会は意外と少ないですし、折角の葉書ですので、協議会への意見、希望する研修や行事、機関誌に対する意見、質問、また地域の情報、近況等どんなことでも結構ですのでお送り下さい。

〈 会 員 の 動 き 〉

【加 入】

大橋秀夫(知多支部)

475 半田市成岩本町 1-20

亀井浩司(名古屋支部)

465 名古屋市名東区大針 3-15

【脱 退】

浅井一郎(名古屋支部) 届

稲田五十鈴(知多支部) 届

鈴木 武(名古屋支部) 死去

宮原康寿(尾 張支部) 届

【住所変更】

荒巻敏夫(東三河支部)

441-12 一宮町一宮字宮前 66-4

佐藤徳次(顧問)

492 稲沢市島町高須賀 150-3



行 事 案 内

☆視察研修会「大台ヶ原」

期日：平成9年5月24～25日（土日）

※希望者は至急申し込んでください。

☆基礎研修会「アミメカゲロウと水生昆虫から見た環境変化」（室内）

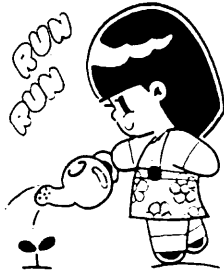
講師：伴 幸成

期日：平成9年6月29日（日）午後1時30分から

場所：未定（送付文を見てください。）

※矢作川流域での長期調査結果を基に環境の変化を考えてみたものです。

★問合せ先：いずれも佐藤（☎05617-3-5674）まで



※ 編集後記 ※

木々の緑が日に日に大きく、色濃くなってきました。我が家の庭でも、ライラックが息苦しいほどに芳香を放っています。一年でもっとも気持ちのいい時期を迎えています。

天気のよい日は、ワープロをたたっているのがつまらなく思えます。私事で恐縮ですが、娘がネフローゼになって半年になります。早く治って、一緒に外に飛び出していければと思っています。

皆様の投稿をお待ちしています。（近藤）

＝ 目 次 ＝

相生山緑地オアシスの森	1
ひつつき虫調査結果	5
愛知県で残したい自然	9
会員の近況	11
支部だより	
名古屋支部	13
尾張支部	14
知多支部	15
事務局から	16



愛知県自然観察指導員連絡協議会 機関誌 NO 62

編集事務局

〒470-11

豊明市西川町笹原1-9 近藤盛英